

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年8月31日
枚方市立津田中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、子どもの生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

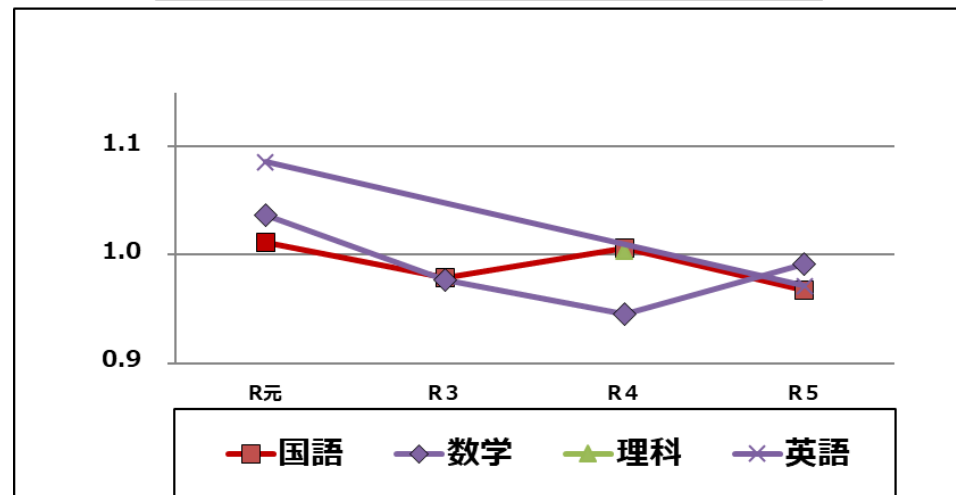
【全体概要】

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

(全国の平均正答率を1とした経年比較)



※令和2年度は中止のため掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、令和5年度未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

○国語について

学習指導要領の内容において、「話すこと・聞くこと」について成果が見られる一方、「読むこと」について課題が見られました。また、問題別では、「事象や行為、心情を表す語句について理解する」について成果が見られる一方、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる」について課題が見られました。

○数学について

学習指導要領の領域において、「数と式」について成果が見られる一方、「図形」について課題が見られました。また、問題別では「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」について成果が見られる一方、「ある事柄が成り立たつことを構想に基づいて証明することができる」について課題が見られました。

○英語について

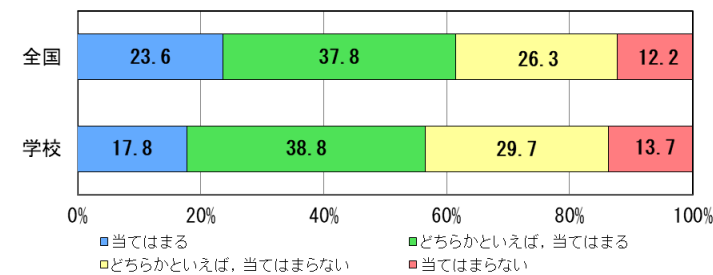
学習指導要領の領域において、「聞くこと」について成果が見られる一方、「書くこと」について課題が見られました。また、問題別では「情報を正確に聞き取ることができる」について成果が見られる一方、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる」について課題が見られました。

質問紙調査の結果

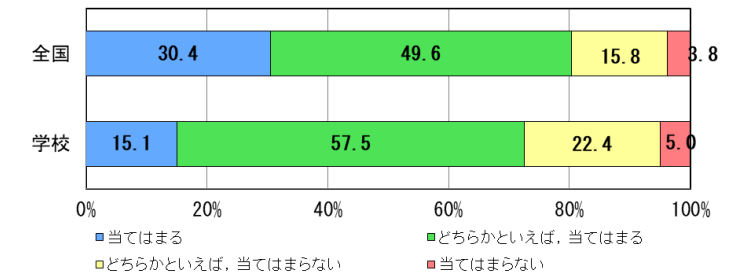
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

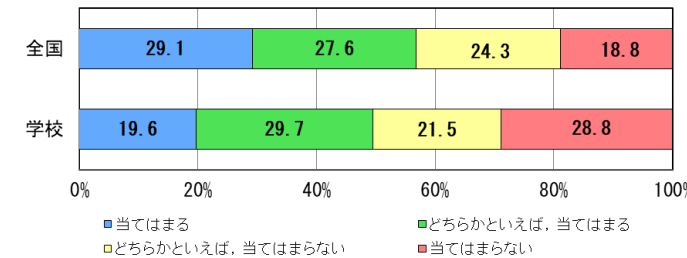
国語の勉強は好きだ



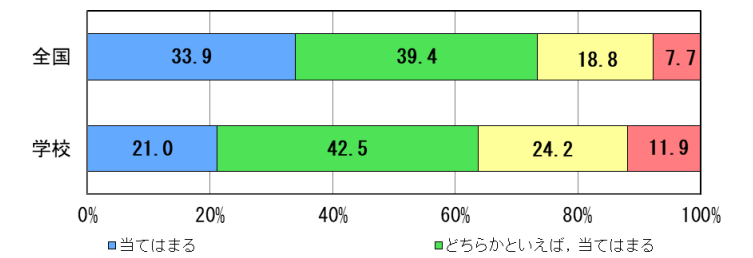
国語の授業の内容はよくわかる



数学の勉強は好きだ



数学の授業の内容はよくわかる



<質問紙調査結果の概要>

「国語の勉強は好きだ」、「国語の授業の内容はよくわかる」の肯定的な回答の割合は、令和1年及び令和3年は全国を下回っていますが、令和4年は、対全国比でそれぞれ+14.0ポイント、+8.1ポイントと大きく上回っています。しかし、令和5年度は、それぞれ-4.8ポイント、-7.4ポイントと下回っています。

「数学の勉強は好きだ」、「数学の授業はよくわかる」の肯定的な回答の割合は、令和1年から令和3年にかけて低下しましたが、令和4年は、対全国比でそれぞれ-1.6ポイント、-0.8ポイントとほぼ全国と同値まで上昇しています。しかし、令和5年度は、-7.4ポイント、-9.8ポイントと下回っています。

まとめ

令和3年から令和4年にかけて、「国語の勉強は好きだ」「数学の勉強は好きだ」の肯定的な回答の割合が共に大きく上昇しており、それに比例して、国語における学力調査の結果が大きく上昇し、数学については、令和4年度から令和5年度にかけて、学力調査の結果が上昇しています。しかしながら、令和4年から令和5年にかけては、それぞれの教科が「好きだ」「よくわかる」の肯定的な回答の割合が低下しています。「好きこそ物の上手なれ」ということわざが示すように、どの子どもも好きで学習していることには夢中になるし、それに関してさらに理解しようと自ら勉強したり、深めたりするので、自然に結果もついてくると考えられます。すべての子どもがいかに楽しんで学習できるか、子どもの興味、関心を引き出す教材研究と授業づくりが肝要と考えられます。

【詳細について】

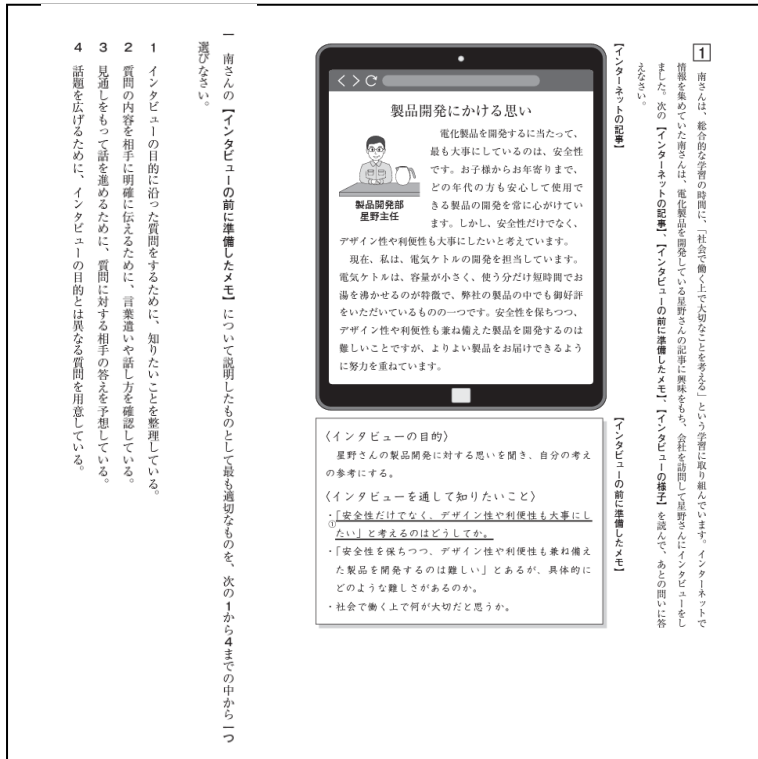
教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する



1 雨さんの「インタビューの前に準備したメモ」について説明したものを、次の1から4までのうちから1つ選択してください。

2 インタビューの目的に沿った質問をするために、知りたいことを整理している。

3 質問の内容を相手に明確に伝えるために、言葉遣いや話し方を確認している。

4 話題を広げるために、インタビューの目的とは異なる質問を用意している。

【インタビューの目的】
雨さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考えの参考にすること。

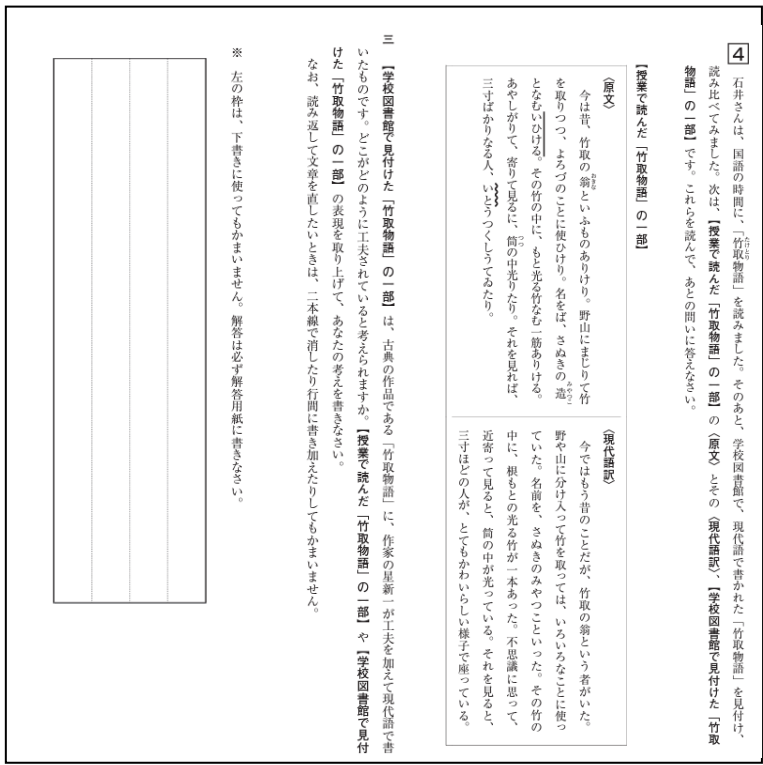
【インタビューを通して知りたいこと】
①「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」と考えている。
②「安全性を確保しつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。
③「社会で働く上で何が大切だと思うか。」

	正答率	無解答率
本校	88.1	0.0
全国	87.5	0.1

（考察）
目的や場面にに応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる問題です。本校では、日々の授業において、様々な教材を用いてペア活動やグループでの活動を実践してきました。これらの活動を通じて、「他者と関わる力」に力点を置き、育成することができており、その成果が表れたと考えられます。
今後も継続して、これらの力を伸ばしていけるよう、子どもたちへの支援に尽力してまいります。

【課題】

現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く



④ 石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読み比べました。次は、「授業で読んだ「竹取物語」の一部」の原文と、「授業で読んだ「竹取物語」の一部」の現代語とを比べて読んで、あとの問いに答えなさい。

【授業で読んだ「竹取物語」の一部】

【原文】
今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつ、よづのこに使用けり。名をば、さぬきの滝たきとなむいける。その竹の中に、ももたる竹む一筋ありける。あやしがりて、密りしるに、闇の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつくしうてたり。

【現代語訳】
今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといって、その竹の中に、闇と光の竹が一本あった。不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

三 「学校図書で見付けた「竹取物語」の一部」は、古典の作品である。「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

<数学>

成果や課題があった設問

【成果】

-5、0、3、4.7、9の中から自然数を全て選ぶ

1 下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。

ア -5
イ 0
ウ 3
エ 4.7
オ 9

	正答率	無解答率
本校	38.6	29.5
全国	50.0	20.7

（考察）
文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかをみる問題です。本調査においては、「表現に注意しながら自身の考えを明らかにして述べる問題」について、一定の課題が認められました。
今後は、朝読書のさらなる活用や、図書室の活用等、読書習慣を身に付け、繊細な日本語の使用について興味を持ち、自身の考えを正確に伝えることができる日本語力を伸ばしてまいります。

	正答率	無解答率
本校	65.7	0.0
全国	46.1	0.1

（考察）
自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題です。日々の授業の中で、教科書を用いて言葉の意味を調べ、仲間と意味を確認・説明する活動等を通じて、継続的に言葉の意味を理解することができていると考えられます。
今後も継続して、教師主導の授業設計ではなく、子どもたちの活動を大切にしたい、子ども主体の授業づくりに取り組んでまいります。

【課題】

2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する

9 次の図1のように、CA = CBの二等辺三角形ABCと、 $\triangle ABC = \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1
△ABCを置いて、直線BCをひく。そして、図2のように、△DEFを回して、点Fを点Aに、点Dを点Cに重ねる。

方法2
△ABCを置いて、直線BCをひく。そして、図4のように、△DEFを回して、点Dを点Aに、点Eを直線BC上に置く。ただし、点Eは点Bと重ならないように置く。

図5のように、点Aと点Dが重なった点をAとして、直線AFをひく。

図6
図6の△ABCと△CEAは、それぞれCA = CB、AC = AEで、 $\triangle ABC = \triangle CEA$ です。図6において、 $BC \parallel AE$ であることを、すでにわかっている $\triangle ABC = \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

（1）優奈さんは、前ページの図1の方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の△ABCと△CEAは、それぞれCA = CB、AC = AEで、 $\triangle ABC = \triangle CEA$ です。図6において、 $BC \parallel AE$ であることを、すでにわかっている $\triangle ABC = \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

<英語>

成果や課題があった設問

【成果】

忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聴き、最も適切な番号を選択する

2 (放送問題)
あなたは買物からの帰宅後、ショッピングセンターに傘を忘れたことに気が付きました。電話で問合せをしたところ、自動音声案内につながりました。流れてくる音声メッセージを聞き、あなたが選択すべき番号として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

	正答率	無解答率
本校	61.0	0.0
全国	61.1	0.2

（考察）
日常的な話題について、目的に応じた英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題です。本校では、日々の授業の中で英語を用いたペア活動やグループでの活動をおこなっており、これらの活動により、相手の伝えたい情報を聞き取る力を伸ばすことができていると考えられます。
今後も、ペア活動やグループ活動をより効果的に実践してまいります。

【課題】

ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する

5
（1）次の英文を読んで、その内容を最も適切に表しているグラフを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

In 2005, about 1,000 tourists from abroad came to Minami City. During the next ten years, the number went up. Over 2,000 tourists came to Minami City in 2015. The number of tourists from Minami City to other countries didn't go up.

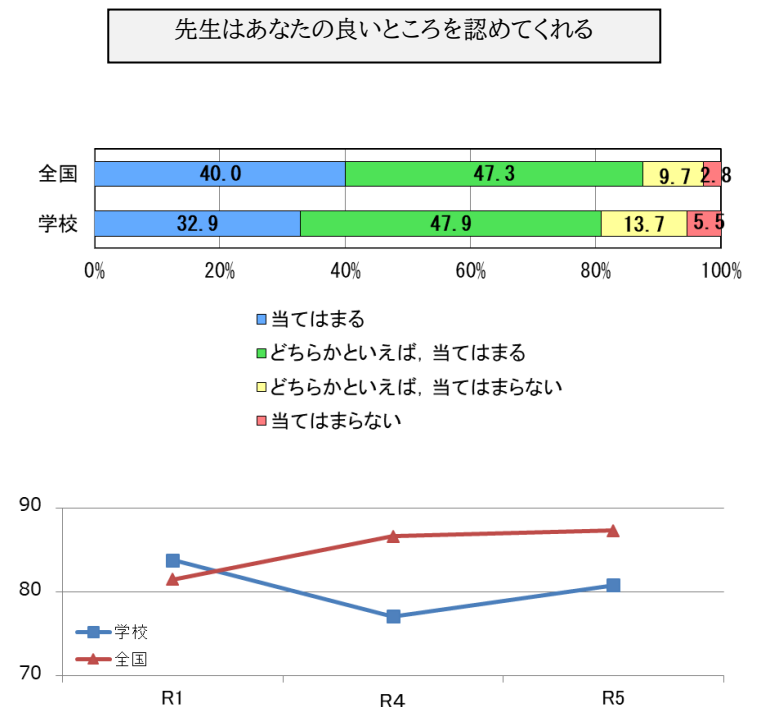
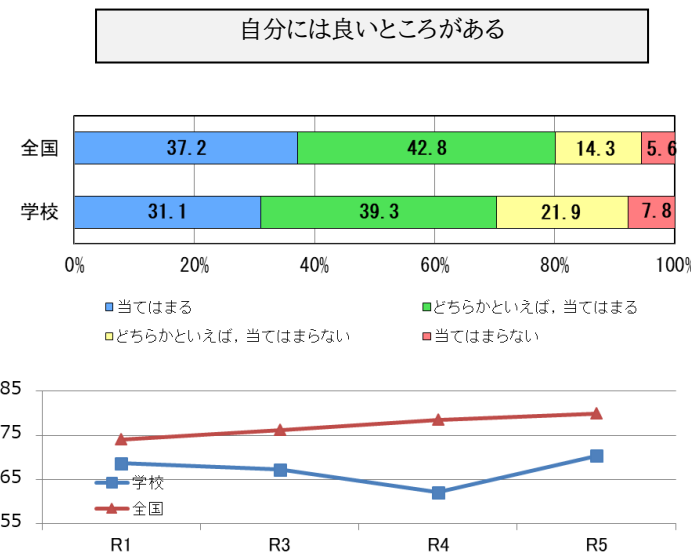
— : Tourists from abroad to Minami City
- - - : Tourists from Minami City to other countries

	正答率	無解答率
本校	47.6	0.0
全国	56.0	0.3

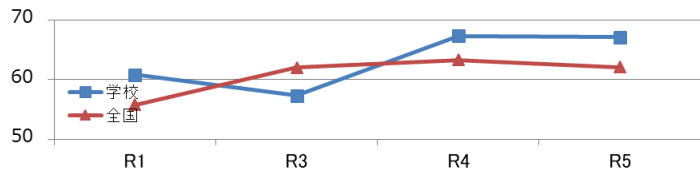
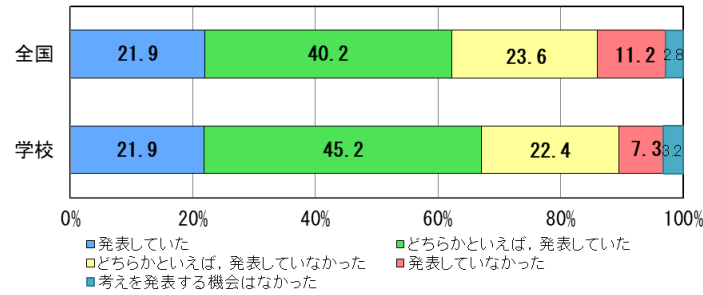
（考察）
情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題です。本調査では、まとまりのある英文から必要な情報を正確に読み取ることにおいて課題がみられました。
日々の授業において、まとまりのある全文を訳すのではなく、必要な情報を読み取り、概要を捉える等、正確に英文を読み取る力を育成してまいります。

質問紙に関する調査

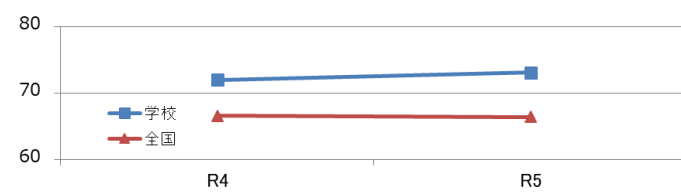
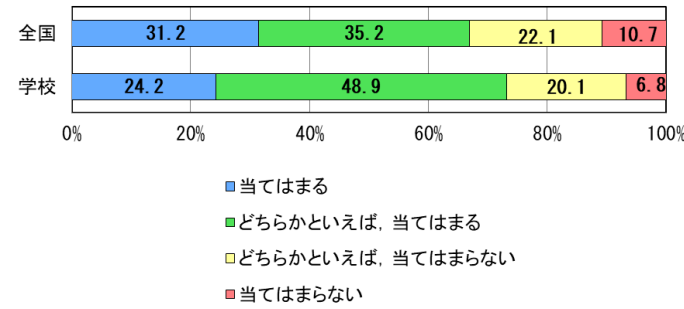
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。



授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している



困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



(考察)

令和5年度における「自分には良いところがある」の質問項目における肯定的回答の割合は、令和4年度と比較して増加(対前年比+8.3ポイント)しており、「先生はあなたの良いところを認めてくれる」の質問項目における肯定的回答の割合も同様に増加(対前年比+3.7ポイント)しています。本校では、令和4年度から、子どもたちの「自分と向き合う力」や「自分を高める力」、「他者とつながる力」などの非認知能力(見えない学力)を高める取組を校区一体となっておこなっており、その取組の成果が表れていると考えられます。加えて、授業においても、子どもたちがみんなの前で自分の考えを発表する場面を積極的に取り入れており、「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」の質問項目における肯定的回答の割合が、全国に比べて5ポイント上回っています。

また、「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の質問項目における肯定的回答の割合は、全国に比べて6.7ポイント上回っており、教員の『「聴く」「受け止める」ことによる内面に迫る指導』が定着し、効果的におこなわれ、さらには、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問項目では、その肯定的回答の割合が、ほぼ全国値であることから、本校において、生徒会を中心とした子ども主体の学校生活が送られており、「子どもたちが安心して生活できる環境」が整いつつあると考えられます。

最後に、「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の質問項目において、週3日以上使用したと回答した割合は、全国に比べて18ポイント上回っており、本校では、国の GIGA スクール構想のもと配付したタブレットが、授業等において、ほぼ毎日活用されていることがわかりました。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- 子どもたちから「わかった」、「できた」、「なるほど」などの呟きが聴こえてくるような授業づくりに努めます。
- 子どもたちがともに学び合い、みんなで課題を解決する時間を取り入れるとともに、自分で考え、自分の考えを自分の言葉で表現する場面を取り入れた授業づくりに努めます。
- 授業において、子どもたちの「自分と向き合う力」や「自分を高める力」、「他者とつながる力」などの子どもたちの非認知能力(見えない学力)を高める取組を継続しておこないます。

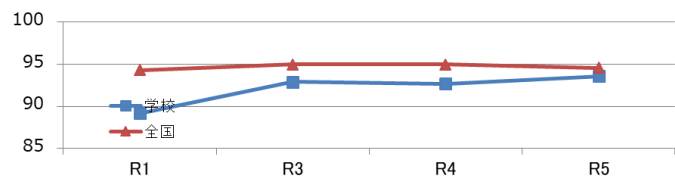
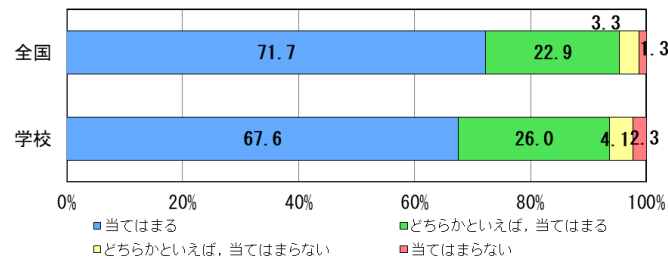
(2) 家庭学習について

- タブレットを活用した週末宿題「津田中1時間+α運動」等を継続しておこなうとともに、取組の成果を「可視化」するなど、子どもたちが達成感を味わうことができるような取組を推進します。
- 中学校の定期テスト1週間前を「校区家庭学習強化週間」と位置づけ、校区小学校と連携した放課後学習や家庭学習の取組を推進します。
- 学校だよりや学級通信、ホームページ(ブログ)等を活用して、学校の取組や子どもたちの様子を効果的に発信するなど、積極的な情報発信に努め、家庭と円滑な連携を図ります。

(3) 子どもが安心して生活できる環境づくりについて

- 正しい子ども理解と信頼関係のもと、基本的な生活習慣が身につくよう、率先垂範により場面を捉えて厳しさの中にも温かさのある指導をおこないます。
- 日頃から生徒の状況を把握し、「聴く」、「受け止める」などのカウンセリングマインドにより内面に迫る指導をおこない、必要に応じて専門家や福祉機関を含めた関係諸機関と連携を図ります。
- 生命の大切さや人を思いやる心など、豊かな人間性と社会性を育むため、道徳・人権教育を基盤とした心の教育を推進します。

人の役に立つ人間になりたいと思う



学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか

